「つや姫」マイスター通信第2号《平成２９年度》

～「全国つや姫フォーラム 2017in おおいた」の報告～

２０１７．９．７

８月２８日（月）、大分県別府市を主会場に「全国つや姫フォーラム２０１７ｉｎおおいた」が開催されました。フォーラムは今回で７回目の開催となります。

山形県、宮城県、島根県、大分県、長崎県、宮崎県の６県に、今年度から新たに「つや姫」の作付を開始した岐阜県、和歌山県も加わり、生産者・関係者等合わせて約２２０名が参加して活発な意見交換・情報交換が行われました。島根県からは、つや姫マイスター３名（斐川地区本部２名、雲南地区本部１名）、関係機関１４名の計１７名が参加しました。

今号では、フォーラムについて報告します。

現 地 研 修 会

現地研修は別府市から豊後高田市に移動し、田染小崎（たしぶおさき）地域、田染蕗（たしぶふき）地域の２箇所を視察しました。

①田染小崎地域

国東半島宇佐地域では、農業用水を得るために小規模なため池が約１，２００あり、水田等で活用され、貴重な水がめとなっています。また、クヌギを用いた循環型原木しいたけ栽培が盛んに行われており、このことは国連食糧農業機関（ＦＡＯ）から高く評価され、平成２５年に世界農業遺産に認定されました。

当地域では約９０ａで「つや姫」が作付されていますが、世界農業遺産米「田染プレミア米つや姫（１等米、タンパク６．５%以下が要件）」として付加価値の高い米の販売も展開されていました。

ほ場整備は実施されておらず、１０００年前から変わらない田園風景を有した地域でした。

田染小崎地域の風景
（写真の品種はヒノヒカリ）

②田染蕗地域

豊後高田市では、平成２９年産の「つや姫」の作付面積は１５ｈａまで拡大しており、世界農業遺産ブランド認証米については、地元ＪＡが積極的に商談活動を行い、関東・関西への売り込みをかけているとのことでした。

視察した（農）ふき村では、以前から「つや姫」の栽培に取組んでおり、ヒノヒカリとの作業分散、いもち病に強い等の理由から“作りやすい品種である”と感想を述べられました。

今年度は食味向上の実証ほを設置し、ケイ酸カリの施用効果について検証が行われていました。

（農）ふき村での現地研修の様子

室 内 研 修 会

・講演「夢ある未来農業への挑戦～マーケットから求める米づくり～」

講師：米・食味鑑定士協会　会長　鈴木秀之　氏

米・食味鑑定士協会は１９９８年に発足し、各種事業を展開しています。

地域ブランド米の事例として、群馬県川場村の「雪ほたか」の事例について紹介がありました。川場村では、農業者の所得向上を目指し、農業＋観光で地域活性化を図っており、首都圏からも近いという立地もあり、人が集まる村づくり、ブランド米づくりを実践しているという内容でした。

その他、水田環境の向上に向けた取組みにより新規での卸との取引につながった事例、コンクールでの上位受賞者の米の差別化販売の事例など紹介がありました。

・話題提供

①「ブランド米の流通状況について」

話題提供者：全農パールライス株式会社　常務取締役　宮崎　章　氏

全国的な米の需給や消費動向等について説明があった後、各県産「つや姫」の販売動向について情報提供がありました。

島根県産「つや姫」については、近畿エリアで人気商品となっているが、期中で毎年品切れとなっていると説明がありました。

【所感】
　島根県産「つや姫」は、取引先の要望数量に応じ切れてないことから、関係者が一体となり、生産拡大に向け、一層作付を誘導していく必要があると改めて感じました。

②「『美しい「つや姫」づくりコンテスト』の取組について」
**　話題提供者：山形県県産米ブランド推進課　課長補佐　中野憲司　氏**
　生産者にスポットをあて「おいしいつや姫は美しい水田から」をコンセプトに、こだわりのある米づくりを実践するプレミアムつや姫産地（９産地）を対象として、産地の取組みや田園風景の美しさを競うコンテストを開催しているという紹介がありました。旅館、報道機関等からの投票により１位に輝いた「寒河江市のつや姫ヴィラージュ」など、各産地の様子がＹｏｕＴｕｂｅで閲覧できるとのです。

・報告　各県の「つや姫」ブランド化に向けた取組について
①山形県（山形つや姫マイスターの会　副会長　菅原　誠　氏）
　県内のつや姫マイスターは６６名に委嘱されており、「つや姫」の作付面積も９，３００ｈａを超えた。マイスターほ場は生育基準田に位置づけられ、生育の模範として技術指導に活用されている。
②岐阜県（岐阜県農産園芸課　技術主査　山田奈巳　氏）
　今年度から準奨励品種として「つや姫」の作付を開始。コシヒカリに比べ倒伏に強く、県内シェア１位の「ハツシモ」と作期分散を図ることが期待でき採用。
③和歌山県（和歌山県果樹園芸課　副主査　千賀泰斗　氏）
　今年度から奨励品種として「つや姫」の作付を開始。和歌山県は海風、台風といった風の影響を受けやすいことから、倒伏に強く、食味の良い品種が求められていた。
④島根県（ＪＡしまね雲南地区本部中央営農経済センター　センター長補佐　高橋信幸　氏）
　雲南市「プレミアムつや姫たたら焔（ほむら）米」の取組みについて紹介。
　特別栽培基準にさらなる付加価値をつけ、地域イメージと合致させた「つや姫」をブランド米として展開。さらなる生産拡大、高品質化に取組んでいきたい。

ＪＡしまね雲南地区本部
高橋センター長補佐

⑤長崎県（ＪＡ壱岐市農産課　課長　堤　清　氏）

長崎県最大の「つや姫」産地が壱岐市。将来は２００ｈａの栽培面積を目指す。

施設では１．９mmふるい目を導入。玄米タンパクが基準をクリアした場合は、精算時に加算措置を設けている。

⑥宮崎県（ＪＡはまゆう営農指導課　主幹　日高　浩平　氏）

超早場米産地で、今年産は８月１日から収穫が始まり、既に出荷済み。

販売先とのタイアップにより、霧島焼酎が抽選で当たるキャンペーンも実施している。

⑦大分県（ＪＡおおいた農畜産課　課長　田村　淳　氏）

大分県での「つや姫」栽培面積は順調に拡大し、今年産では６００ｈａまで拡大。

生協との結びつき販売、世界農業遺産米などブランド化へ向けた取組みも積極的に展開している。マイスター制度も今年度から始まった。

フォーラム宣言

フォーラムの締めくくりとして、以下の内容について宣言し、参加者で確認しました。

「全国つや姫フォーラム２０１７　宣言」

ひとつ、「つや姫」ブランド化の先頭に立ち、生産各県と連携しながら、産地として更なるレベルアップを図ります。　山形県

ひとつ、食味・品質向上に向けて、こだわりの米づくりを行いながら、地域に根付いた「つや姫」の生産を行います。　和歌山県

ひとつ、県全体の取組に加え、新たな地域ブランド米を作り上げることで、多様化するニーズに応じた「つや姫」の生産を行います。　島根県

ひとつ、食味向上に向けた取組に力を入れるとともに、生産者・関係機関一体となり、「ながさきつや姫」の更なるブランド化を図ります。　長崎県

ひとつ、需要に応じた生産を核に、食味・品質向上につながる技術の追求を進めながら、「つや姫」産地の定着を図ります。　宮崎県

ひとつ、面積拡大や収量・品質向上を図りつつ、「大分つや姫」の更なるブランド化に向けた取組を実施します。　大分県

以上、ここに宣言する

感　想

今回のフォーラムには農作業の繁忙期、また遠方にも関わらず、３名のつや姫マイスターに参加いただき誠にありがとうございました。

島根県代表として事例発表いただいたＪＡしまね雲南地区本部　高橋センター長補佐には、地域ブランド米として一生懸命頑張っている姿を全国のつや姫産地に発信していただきました。ありがとうございました。

現地研修会、室内研修会、情報交換会を通し、他産地の生産者・関係機関職員とも交流を深め、積極的な情報交換を行うなど、有意義なフォーラムとなりました。

今後とも各生産県が切磋琢磨することで、「つや姫」のさらなる高品質化やブランド力向上に向けて取組むことを参加者全員で認識することができたと思います。

（農産園芸課水田農業グループ）

☆「島根県ホームページでの情報提供」

「つや姫マイスター通信」と「つや姫栽培管理情報」を島根県ホームページでも掲載しています。

◆ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/seisan/shinkou/komesinhinsyu.html

□ お問い合わせ

ＪＡしまね
米穀園芸部米穀課
〃　総合指導課
TEL：0853(25)8691，8696

島根県農業技術センター
技術普及部農産技術普及課
TEL：0853(22)6967

島根県農産園芸課
水田農業グループ
TEL：0852(22)5129